



# やなぎっし

北九州市立大里柳小学校 校長 松中 保明



【学校教育目標】：これからの社会を生き抜く3つの視点…「自律」「協働」「創造」  
「SDGsの視点を基に大里柳小の特徴を生かしながら、  
確かな資質・能力を獲得し、自ら学び続ける人間性豊かな児童の育成」

【目指す子どもの姿】：6つの好き「友達・先生・柳校・柳のまち・学ぶこと・自分」  
～夢を語り合い、仲間とともに価値あることを創造し、  
自らを問い直しながら粘り強くやり抜く大里柳っ子～  
○【やさしく】：夢を語り合い、お互いを尊重し合う子ども→自律・協働・創造の「種」  
○【かしこく】：仲間とともに価値あることを創造する子ども→協働・創造  
○【たくましく】：自らを問い直しながら粘り強くやり抜く子ども→自律

## SDGs 17 パートナリーシップで目標の達成を ～一部教科担任制の実施 1年間を振り返って～

本年度から5・6年生で実施しました一部教科担任制の一年間。子どもも教師も戸惑いながら手探りの実施でしたが、現在の小学校教育の課題を解決していく大きな手ごたえと解決していくべき課題も見えてきました。

### ① 教科毎に違う教師による学習指導の効果と課題

中学校は完全な教科担任制です。中学校入学後、不登校が激増するいわゆる「中一ギャップ」は、我が国の教育の大きな課題です。子どもたちや保護者の皆様の声からも、中学校へのステップが小学校高学年でできることで、中学校入学前に慣れや心構えができてきたのではないのでしょうか。学級の枠を越えて、子どもの生活面・学習面に関する教員同士の情報交換が以前よりも職員室の中で盛んに行われています。たくさんの教師の目で子どものよさを捉えることに繋がっていると思います。担任だけではなく、子どもが他の教師に自然に相談できる雰囲気ができてきました。

子どもたちは教師の教え方の違いを好意的に受け止めている場合が多いようです。教師は同じ内容の授業を3回行うことで、授業の工夫や準備時間の改善が図られ、より子どもにとって分かりやすい授業になっていると好評です。また、本校では「大里柳小授業スタンダード」を作成し、1年生から6年生まで共通理解のもと、基本的な授業づくりからノートの書き方、板書の仕方など、子どもがどの学年・学級にいても迷わず安心して学習することができるように取り組んでいます。

提出物や宿題に関する確認の徹底については学校評価アンケートにも課題として挙げられていました。本校では全学年共通理解のもと、「漢字・計算・音読」を基本の宿題として焦点化し、繰り返したりじっくり取り組んだりしながら基礎的・基本的内容の定着を図っています。自主的・発展的な課題追求の場としては、「柳っ子自学ノート」を発達段階や個人の希望等に応じて、各学年で話し合っており取り組んでいます。自学ノートを専科指導担当教員に自分から提出し、より具体的な指導を受けようとする自ら学ぶ子どもも出てきました。すばらしい姿です。

教員の体調不良や家庭の事情等で欠席や遅刻の場合も、時間割の入替や空き時間の教員を活用することを通して、原則として授業を進めていくようにしました。そのことは子どもの学習を保証し、子どもにとってより安心できる学校生活に資するとともに、体調不良であった教員の負担を軽減することもある程度できたと考えます。

子どもの戸惑いで多かったのは、「急に担任の先生に伝えたいことがあるときにはどこで授業をしているのか分からなかった」という点でした。このことについては、その日の担任の動向を明示するよう工夫しています。

### ② 行事による時間割の調整

運動会や水泳などの授業、自然教室や修学旅行の事前準備などの学級での学習については「特別時間割」を随時作成し、時間割の調整を図ってきました。この点は、特に1学期において学級担任制の時よりも時間割の調整や専科教員と担任との連絡調整に時間がかかり、苦労しました。慣れない面もあり、教師の働き方改革という点では逆行した部分もありました。しかし、2学期以降は毎週、時間割調整日を設定し、担任と専科教員とで一層共通理解を図りながら、随時時間割を確認、確定するなど、時間割調整にも慣れてきました。

### ③ 子ども同士のトラブルの解決

子ども同士のトラブルの解決には、学級を越えて学年で対応していきました。この点も中学校的な対応に近づいています。一人一人の子どもを学年に関わる多くの教師が把握することができているので、多面的に関わることができました。悩みの相談なども、より話しやすい先生にまず話し、そこから関係教員に繋いでいくなどして、子どもの心に寄り添う組織的な対応を行うことに努めました。その結果、子どもからは「どの先生でも相談がしやすくなった。」「学年や専科、どの先生も自分のことを分かってくれているので安心が増えた。」など、子どもにとって学校がまた一步、安心できる存在となることができてきていると思います。今後も続けてまいります。

※ 学校評価アンケートの中では、「今年度、初めて教科ごとに担当する先生が変わるとのことで心配もありましたが、どの教科も楽しく学習できたようで安心しました。学校に行くといつも明るい雰囲気でホッとします。」といったご意見もいただきました。また、学校評議員様から、例年より教員が休み時間に運動場等で子どもと遊ぶ姿が増えて嬉しいとお言葉をいただきました。これは空き時間を有効活用し、これまで休み時間等に行っていた事務作業等ができるようになったことが要因の一つであり、小学校一部教科担任制の目的の一つである、子どもに向き合う時間の確保に繋がっていると考えます。新しい取組のため課題もまだまだございます。子どものよりよい成長のため、職員一丸となって、今後も取り組んでまいります。ご理解、ご協力のほど、よろしく願いいたします。